

**中央教育審議会 大学分科会**  
**法科大学院等特別委員会（第107回） 報告資料**

**令和4年7月27日（水）開催**

**日本大学大学院法務研究科**  
**教授・専攻主任**

**須藤 典明**

- 1 はじめに – 日本大学ロースクールの基本情報
- 2 司法試験合格者から見た日本大学ロースクールの特徴
- 3 社会人学生の実情
- 4 昼夜開講の実情と課題など
- 5 社会人学生に対する学修などの支援
- 6 社会人学生の入学増加に向けた取組
- 7 おわりに – 社会人に開かれたロースクールへ

**（本報告のうち意見にわたる部分は、報告者の個人的な意見です。）**

# 1 はじめに – 日本大学ロースクールの基本情報 (1)

## コース創設の時期や背景、定員規模、入学者属性

### ① コース創設の時期・背景

- ・ 平成16 (2004) 年に開講
- ・ 平成27 (2015) 年から夜間学生の受入れ開始
  
- ・ 日本大学は明治22年 (1889年) に「日本法律学校」として開設
- ・ 夜間部で有職の社会人学生も受け入れて実務法律家を養成
- ・ 建学の精神に立ち返って昼夜開講を決定

### ② 定員規模

- ・ 当初は100名 ⇒ 現在60名 (既修者45名, 未修者15名)  
( 募集定員として昼夜の区別はない ⇒ 入学時に選択してもらう )

### ③ 入学者属性

令和4年度入学者 (41名)

(内訳は, 昼間主 14名, 夜間主 27名)

# 1 はじめに – 日本大学ロースクールの基本情報 (2)

## 教育課程の特徴

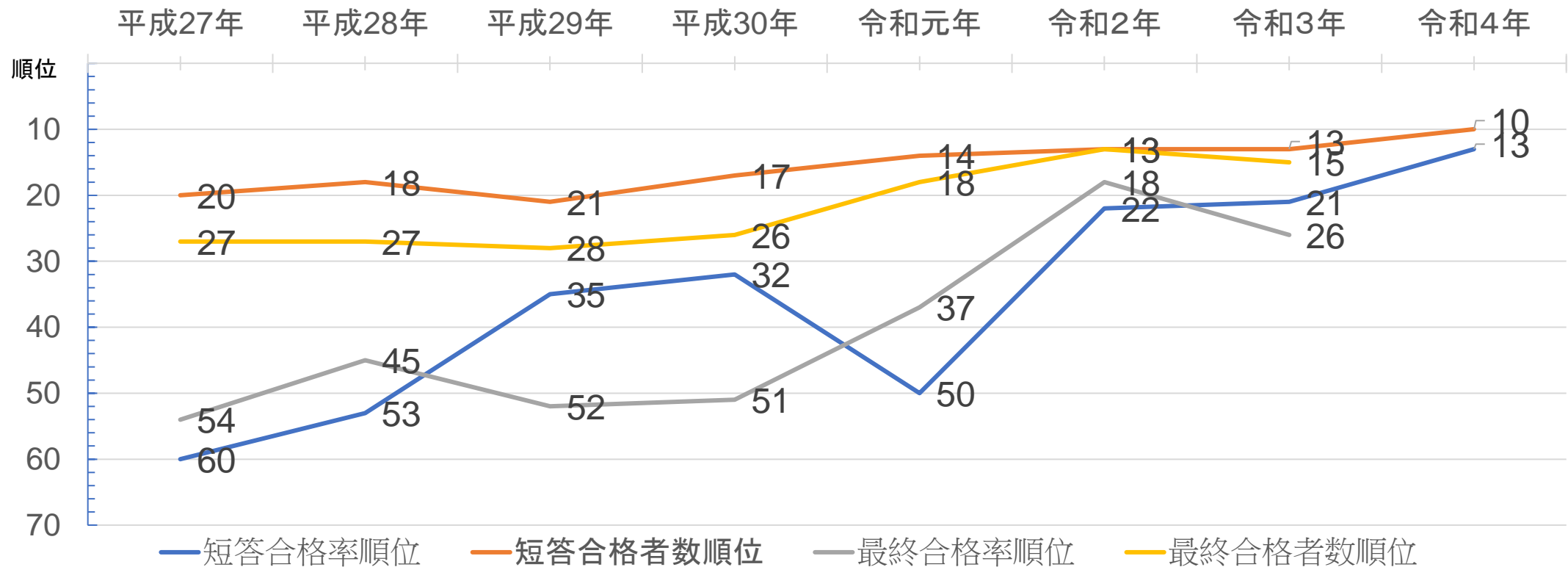
- **昼夜開講の実情**
  - 在校生の未修・既修の実情 (R4.7.1現在 88名在籍)
    - 未修 36名 (①14 ②11 ③11) 既修 52名 (②33 ③19)
  - 在校生の昼・夜の実情 (R4.7.1現在)
    - 昼 36名(①未6 ②未9 既10 ③未3 既8) 夜 52名(①未8 ②未2 既23 ③未8 既11)
- **長期履修制度** ⇒ 仕事の関係で長期も簡単ではない?
  - 在校生88名中9名 (年に1~2名・未修4年間4名/既修3年間5名)
- **奨学金制度** ⇒ 社会人学生も給与はあるが家庭の負担を軽減したい
  - 給付型奨学金 (日本大学内部+外部) + 貸与型奨学金 (学生支援機構など)

# 1 はじめに — 日本大学ロースクールの基本情報 (3)

## 司法試験の合格状況

- ・令和3年司法試験では、受験者数71名中、17名が司法試験に合格。(合格率は、23.94%)
- ・合格者17名中、1回目の合格者は9名。(合格率37.5%) (令和3年3月修了者は24名が受験)

司法試験合格状況 (法科大学院別順位の推移・直近8年分)



# 1 はじめに — 日本大学ロースクールの基本情報 (4)

## 修了生の進路

- **司法試験合格者**
  - 弁護士や企業内弁護士(40代～は 法律事務所が採用したがるらない?)
  - 修習期間中は休職扱いで修了後は地方自治体職員を続ける者
  - 修習に行かずに社員のまま仕事をする者
- **司法試験不合格者**
  - 公務員、会社員、司法書士、行政書士、法律事務所職員など
  - 実家に帰省して家業を継ぐ

## 2 司法試験合格者から見た日本大学ロースクールの特徴

### 社会人の司法試験合格者のコメント（合格体験記からの抜粋）

- ・ 多すぎず少なすぎず、適正な少人数で、先生との距離も近く、授業は常に緊張感と参加感があり、空いた時間には学生同士の情報交換などもできた
- ・ 先生方も、学生の弱点を見抜いていて、時に鋭く、時に助け舟を出しての質疑応答などは、仕事とは違う充実感があつた
- ・ 仕事をもつ社会人学生としては、都心にありアクセスの良さも助かった
- ・ 昼夜開講で、夜の都合が悪いときには、昼の授業に振り替えることもできた
- ・ コロナ禍において、迅速にオンライン授業が配信され、膨大なレジュメや資料等のプリントアウトが各学生ごとに郵送されて、本当にありがたかった
- ・ 奨学金が充実しており、家庭への負担が軽減され、とても助かった
- ・ 修了後も広い自習室や図書室を使えた上、多くの自主ゼミが実施されるなど、手厚い支援を受けられた

# 3 社会人学生の実情 (1)

## 年齢構成、職業、男女比など

令和4年度入学者（41名）の内訳

- ① **年齢構成** 20代 13名 30代 13名 40代 11名 50代 3名 60代以上 1名
- ② **職業** 公認会計士、企業の法務担当、公務員、会社経営、マスコミ関係、会社員 等  
(これまで 医師、税理士、司法書士、行政書士、会社役員、国会議員秘書なども)
- ③ **男女比** 男性 30名 (73.2%) : 女性 11名 (26.8%)

- ・ 再チャレンジ組の増加 ⇒ 仕事をしながら司法試験を諦めきれない
- ・ 独学や予備校での学修に限界を感じた者の入学
  - ・ 独学などでは、教科書や論点の暗記が中心になってしまい、知識の広がりや深さ、論理の汎用性や体系性、具体的事案への応用力などが身につけにくい
- ・ 50歳以降の人生リセット・チャレンジ組の増加
  - ・ 自分よりも若い学生とフラットに付き合えるか、合格しても事務所探しは苦戦



### 3 社会人学生の実情 (2)

- ・ 予習・復習をする十分な時間がとれないことが最大の悩み
    - ・ 学修や授業の効率化、隙間時間の活用、授業がない期間の学修のサポート
  - ・ 自習室の利用時間の拡大や学修環境の整備などへの要望が多い
  - ・ 勤務先に夜間のロースクールで学修していることを内密にしている
- 社会人学生も少なくない
- ・ 海外や遠隔地への転勤で学修の継続が困難になる
  - ・ 社内異動で昇進し、学修継続への意欲が減退する
- ・ 緊急の仕事や出張などで期末試験を受けられない ⇒ 追試を認める例もある
  - ・ 社会人学生の悩みや弱点は個人差が大きい ⇒ サポートも柔軟性が必要

# 4 昼夜開講の実情と課題など (1)

曜日ごとの昼夜の開設科目数 (2022年度前学期)

時 限	曜 日					
	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 (09:00-10:30)		1				
2 (10:40-12:10)	1			1	2	2
3 (13:00-14:30)	1	1	1	2	1	2
4 (14:40-16:10)	2	1	2	3		2
5 (16:20-17:50)	1	2	5	1	1	3
6 (18:30-20:00)	2	5	4	5	2	
7 (20:10-21:40)	2	3	4	2	2	

※ 夜間主向けの開講科目

## 4 昼夜開講の実情と課題など (2)

### (1) カリキュラム編成の苦勞

- ・ 夜間は限られたコマ数に複数の科目を割り当てざるを得ない
  - ・ 平日1日2コマ合計10コマ+土曜日5コマ
- ・ 開講数は半期で約40科目 ⇒ 1コマに約3講座
- ・ 必修科目を優先せざるを得ない結果、展開・先端科目が重複して履修しにくい？

### (2) 教員や事務職員などの負担の調整など

- ・ 専任教員が主に夜間コースの授業を担当
- ・ 教員が異なっても同じ内容の授業を提供する（シラバス・教材・授業内容の調整）
- ・ 夜間生の事務手続を処理する職員の手当て
- ・ 授業の実施をサポートする職員や警備の手当てなど（道路に面したビル3つを使用）

## 4 昼夜開講の実情と課題など (3)

### (3) 社会人学生の仕事と学修との両立のサポート

- ・ 仕事もあり毎日2コマの履修はなかなか難しい？
- ・ 夜と昼との授業の振替も効果的（昼・夜は同じ内容の授業を提供）
  - ・ 昼と夜で異なる学生の学修レベルにどう合わせるか
- ・ ICT授業やオンデマンド視聴の併用と限界？
  - ・ 移動時間は節約できるが、ピンポイント学修になりがちで、質疑応答も積極性や広がり欠ける？
  - ・ 教室授業の副次的効果 – 仲間との交流・情報交換・相談・会話などが容易で精神安定効果もある
- ・ 常時のカリキュラム相談や学修相談の態勢整備
  - ・ ロースクール専用棟なのでいつでも話ができる

# 5 社会人学生に対する学修などの支援 (1)

## (1) 関連科目履修生の実情に応じたコマの調整など

- ・ ex. 「租税法」履修者は「租税法演習」を選択したいが、必修科目とダブっている
- ・ 開講コマの移動や夜と昼との振替受講も認める

## (2) 予習の軽減と復習の重視

- ・ 仕事をしながら大量の資料を予習することは時間的に不可能
  - ・ 夜間コースは、土曜日のほか、祝日・振替休日にも授業があり、時間がない
  - ・ 予習の軽減 ⇒ ex. 判例演習では「事実の概要」と「判旨」だけは読んでくる
  - ・ 大量の資料の予習を前提とする授業に対し、社会人学生の不満が強い
  - ・ 反転授業など負担の多いものは採用しにくい
- ・ 復習を授業に組み込む試みもある（90分のうち、最初の30分は復習に充てる）
  - ・ レジюмеも、授業内で前回の復習をする前提のものを作成し配布する
  - ・ レポート提出の功罪 ⇒ 割当分はよくやるが、それ以外は手抜き・未消化になる？

# 5 社会人学生に対する学修などの支援 (2)

## (3) 効果的で効率的な授業

- ・ 関連する事項を系統的に説明・解説する
- ・ 科目横断的な汎用性のある知識をなるべく多く修得させる
- ・ 多くの社会人学生は司法試験を意識した授業を期待

## (4) オンライン授業における質問や学修相談などへの対応

- ・ オフィス・アワーよりも、メールでの質問や相談が増えた
- ・ メールでの質問は、質問の趣旨がつかみにくいものも多く、回答に悩むものもある
- ・ メールでのやり取りは口頭での何倍も時間がかかり、教員や事務職員はこれまで以上に、時間を割かれている

## (5) その他の支援など

- ・ オフィス・アワーを柔軟に運用する（土曜日や夜間の相談も受け付ける）
- ・ 授業がない期間に「夏季特別集中講座」「基礎重点項目講座」「自主ゼミ」などを開講
- ・ 自習室の利用時間の延長、ロースクール独自の図書室や設備・備品などの充実

## 6 社会人学生の入学増加に向けた取組

### (1) HPによる日本大学ロースクールの実情と魅力を情報発信

- ・ 都心で通学に便利
- ・ 昼夜開講で仕事をもつ社会人に最適
- ・ さまざまな奨学金で経済的支援も充実
- ・ 修了後も5年間は研修生としてサポートがあり、自習室なども年間1万円で利用可能

### (2) さまざまな媒体・機会を利用した情報発信

- ・ 民間のロースクール案内への掲載（有料）なども積極的に利用してPR
- ・ 日本大学全学の企業人事担当者との懇談懇親会にも参加して夜間コースをPR
- ・ オンラインによる社会人を主なターゲットとする進学相談会の実施

### (3) 司法試験に合格した社会人学生による情報発信

- ・ 合格した社会人学生による合格体験記の公表・配布
- ・ 合格した社会人学生に参加してもらう各種の説明会や座談会の実施

# 7 おわりに – 社会人に開かれたロースクールへ

## (1) 現在の司法試験のレベルは社会人の未修学生には難しい

- ・ 合格上位校でも大量の不合格者がいて、その不満がロースクールの評判を下げている
- ・ 社会人にとってロースクールへの入学は大きなリスクを伴い、入学をためらわせている
- ・ 社会人のリカレントの一環として、法学部の夜間コースや通信教育での科目履修などで法律の基礎を学び、肩慣らしをしてからロースクールに入学するのが現実的か？
- ・ 予備試験を受けている社会人をロースクールへ取り込むことも現実的な選択肢か？

## (2) 社会人が大きな困難を伴わずに学べるロースクールが身近に必要

- ・ 多様な法曹は、多様な人材と多様なロースクール教育から生まれる
- ・ 社会人に開かれたロースクールが増えて発展することが、日本社会における法教育の充実・発展や、司法アクセスの整備に大きく貢献する
- ・ 法曹養成はオンラインやオンデマンドだけでは不十分でキャンパスでの学びが必要？
- ・ 夜間コースを開設するロースクールが地域ごとに必要 ⇒ どうすれば存続できるのか？



**お聞きいただき、  
ありがとうございました。**

